

ベトナムの高等教育機関における日本語発音指導の実践 －教材作成と運用、聞き取り調査を中心に－

千 仙永（国際基督教大学）

1. 活動の背景

筆者が活動を実施した教育機関は、ベトナムの中部にあるフエ大学外国語大学日本語・日本文化学部である。ベトナム人教師 13 名（19 名のうち、留学や産休を除く）と、日本人教師 3 名（特別顧問、特別講師、JICA ボランティア）が在職しており、学生数は約 720 名である。

フエ大学外国語大学日本語・日本文化学部では、発音指導を早期に始めたほうがよいという理由により、2023 年 12 月から「発音指導プログラム」の開発が始まった。学部には自信を持って発音指導ができるというベトナム人教師はおらず、現場の声として「初心者でも発音練習ができるように」「日本人教師でなくても指導ができるように」といった要望が出ていた。そこで 2024 年 2 月から、日本から招聘された特別講師による指導の原案作成や、教師向けの発音指導ビデオ教材の作成が行われた。

筆者が「発音指導プログラム」に関わるようになったのは 2024 年 3 月からで、現地のベトナム人教師と発音指導の実践に向けた勉強会を開催した。このプログラムには、筆者の専門分野が音声教育であり、さらに韓国語を母語とする点から、ベトナム人教師と非母語話者日本語教師同士という共通の経験を持つ者として、ピア・サポートをする立場に関わり始めた。

2. 本プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、非母語話者日本語教師が自立して、発音指導ができるように支援することである。具体的には、ベトナムの高等教育機関における「発音指導プログラム」を担う非母語話者日本語教師を支援する。

3. プロジェクトのスケジュール

3-1 プロジェクト全体のスケジュール

2024 年度の活動の流れは表 1 のとおりである。4 月には、ベトナム人教師ら、JICA のボランティア、筆者の意見交換をもとに作成した「指導案」が完成した。5 月から JICA ボランティアと共同作業で「スライド教材」を作成した。6 月からはベトナム人教師らによる「ワークシート」の作成が始まった。8 月にはこれらの教材が完成し、「発音指導プログラム」の全 27 課分の指導内容が整った。

新学年が始まる 9 月より、発音指導の実施を始めた。10 月までは主に日本人教師が担当し、11 月よりベトナム人教師へとシフトしていった。学期末の 12 月には「発音指導プログラム」の試用が終わり、1 月に「発音指導プログラム」に関する聞き取り調査を実施した。2 月にはデータの分析・考察を進めた。

表 1 プロジェクトのスケジュール

時期	活動内容
4 月	「指導案」の完成
5 月	「スライド教材」の作成
6 月	↓ 「ワークシート」の作成
7 月	↓ ↓
8 月	「発音指導プログラム」の教材完成
9 月	「発音指導プログラム」の試用開始
10 月	↓ 日本人教師による指導
11 月	↓ ベトナム人教師による指導
12 月	「発音指導プログラム」の試用終了
1 月	聞き取り調査
2 月	データ分析・考察

3-2 渡航中のスケジュール

ベトナム現地には、「発音指導プログラム」の担当が日本人教師からベトナム人教師へとシフトしている 11 月 23 日に渡航し、26 日から 29 日まで現地調査を実施した。当初予定していた

25 日の調査は、大雨により休校となり、実施できなかった。26 日も大雨の影響があり、オンライン実施となった授業を見学した。27 日から 29 日にかけて、対面授業で発音指導を実施しながら教材の使い勝手を確認し、ベトナム人教師と筆者の授業見学を相互で行った。発音指導の様子は録画し、授業終了後に振り返りを行った。

4. 活動内容

現地調査での活動内容を写真とともに示す。現地調査では実際の発音指導をとおして教材の使い勝手を検討し、ベトナム人教師と筆者の授業見学を相互で行った。図 1 は、ベトナム人教師と筆者がそれぞれ発音指導を行い、相互見学した際の写真である。図 2 は、学習者が発音指導を受けた際に学んだことを記入した「ワークシート」の写真である。



図 1 発音指導の相互見学の様子

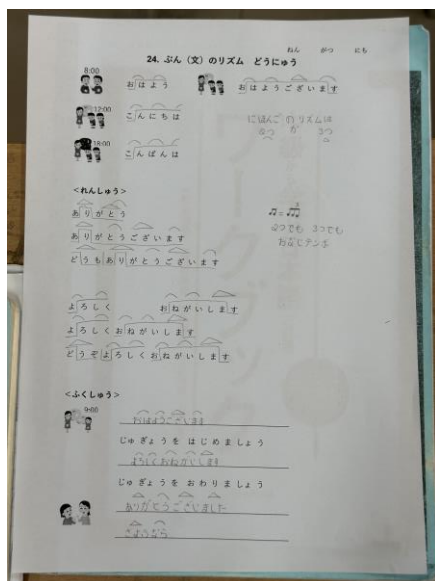


図 2 学習者による「ワークシート」のメモ

5. 得られた成果

現地調査から得られた成果は、次の 3 点にまとめられる。

5-1 教材作成の効果

「スライド教材」によって、体系的な発音指導の体制が整えられ、クラスをまたがって「発音指導プログラム」が機能していたことがわかった。また、「ワークシート」の作成によって、教師側の共通認識が深化したことがわかった。

5-2 教材の使い勝手

授業見学では、実際の指導体験をもって教材の使い勝手を確認できた。教室のレイアウトや投影資料・音声の大きさ、教師の立ち位置など考慮し、改善に繋げたい。また、現地調査では授業形態が突然変わることも経験した。授業形態にとらわれず指導できる「発音指導プログラム」の構築が必要である点を考えさせられた。

5-3 教師の意識変容

授業見学や「発音指導プログラム」実施後の聞き取り調査から、ベトナム人教師側の発音指導に対する意識の変容が見られた。例えば、指導実践の様子を録画し、一緒に振り返ることによって、ベトナム人教師が発音指導に対して自信をつけていく様子が観察された。また、あるベトナム人教師は発音指導と自身の専門分野との関係を考察し、研究に対する探究心が芽生えた様子も見られた。

6. まとめと今後に向けて

本プログラムの助成を受けて、「ベトナム人日本語教師を対象とした発音指導の勉強会」の活動が無事終え、多くの示唆を得られた。

現地調査の成果を活かし、ベトナム人教師と今後も協力して、「発音指導プログラム」を改善していきたい。また、調査から得られたデータの分析・考察を進め、海外の日本語教育現場や教師教育に向けて発信していきたい。